

まえがき

本書は、大学の情報系の学生に対する「情報セキュリティ」の教科書として作成したものである。

近年のインターネットやコンピュータを用いた情報サービスの発展は目覚ましい。Twitter や Facebook さらには Ustream の出現などにより、従来は一般の人ではできなかった大勢の人に向けての各種の情報発信が容易にできるようになってきている。また、クラウドコンピューティングの普及などにより、安くて便利なサービスの提供が容易になり、その利用者にとって、従来では考えられないほど便利な社会になってきている。

しかし、光の部分が強ければ強いほど影の部分も目立ってきており、インターネットを経由した標的型攻撃などのセキュリティの脅威は大きな問題となっている。このため 1 人ひとりが適切な対策をとれるようにすることが不可欠であり、その一助として、セキュリティ対策に関する本が必要とされている。私が 1996 年に「インターネットセキュリティ 基礎と対策技術」という本を執筆した当時は情報セキュリティに関する本はほとんどなかったが、今では実に多くの本が出版されている。

しかし、これらを情報セキュリティの教科書として使おうとすると次のような問題があった。

- (1) 情報セキュリティに関しては、暗号技術、ネットワークセキュリティ、セキュリティマネジメント、セキュリティ関連の法律など知るべきことが多いにも関わらず、これらを広く扱う本は少なかった。
- (2) 広く扱う本も中にはあったが、執筆者が 1 人の場合は、執筆者がすべてに精通しているわけではないため、記述のレベルにばらつきがあった。
- (3) 一方、いろいろな専門家に分担して執筆してもらうと、1 つひとつの章が難しくなりすぎる傾向があった。

そのため、本書では、情報セキュリティに関する講義を実際に担当している先生をリストアップし、最適な先生にそれぞれの章を執筆いただくように依頼した。そのうえで、難しくなりすぎるのを防止するため、ページ数を限定するとともに、大学の 3 年生、4 年生でも理解できるようなものにするよう事前をお願いした。あわせて最終段階であまりにも記述レベルの違うものは、調整をお願いした。

この本を発刊するにあたって、多くの方々にお世話になった。まず、お忙しい中執筆を行うとともに、別の執筆者の記述部分の査読を担当いただいた著者の皆さまに感謝申し上げる。特に、手塚悟氏にはあつく感謝したい。全体構成を私と一緒に決定したのは、自らの担当部分

の執筆を行うだけではなく、他の執筆者の方々への執筆項目の方向づけや、執筆原稿間の重複の調整などの取りまとめを実施していただいた。また、多くの執筆者がいる中、手塚氏に協力しつつ調整を行い、編集を担当いただいた島田誠氏にもお礼を申し上げる。

この本が、情報セキュリティの教育に役立ち、学んだ人たちの安全を確保できるようになっていくことをまず期待している。そして、ここで学んだことをベースに、勉学を続けるとともに、実務経験をつむことにより、情報セキュリティの優秀な専門家が増えてくることを期待している。

2011年8月

佐々木良一